

話題の講義ライブ
LIVE 2012

Today's Program 憲法演習

KYUSYU UNIVERSITY 九州大学



法学部

5.25.Fri. at Fukuoka

16:40~18:10

南野 森 准教授



夏が感じられるなか、四辺形に配置された長机に学生たちが着席し、講義の準備が整った。まずは南野先生からゼミ生へ、レクリエーション参加人数の確認など連絡事項が伝達された。先生と学生たちとの会話は機知に富んだジョークが溢れ、この和やかな雰囲気はサークルのミーティングのようだ。タイミングを見計らって「じゃ、始めようか」と南野先生。その瞬間、学生たちの顔が一

スタートは
問題を見つけていくこと！

講義時間延長が当たり前!?
時を忘れる白熱ゼミ

講義の流れ
グループによる発表を受けて、その内容に関する討論を行う。
自ら選択・設定した憲法上の論点を批判的に分析して報告。さらにその後の徹底的な討論で、憲法学への理解と知識が深まっていく。

気が引き締められ、「憲法演習」(南野ゼミ)が開始した。同ゼミでは、憲法の学説や判例を取り上げて、批判的な検討を行うことにより、学生たちの法的思考と憲法学への理解を深めていく。具体的な方法は発表と討論。ゼミ生は自ら選択・設定した憲法上の論点について分析し、結果を皆の前で発表する。その発表を軸に、全員で討論するのだ。発表は回を重ねるごとに難易度が高まり、ハードル

が少しずつ高くなっていく。今日のテーマは「公務員の政治的行為と司法救済」。担当グループがA4サイズ15枚に及ぶ資料を配付して、発表が始まった。数分後、先生がダメ出しする。だから読むんじゃなくて、要約してこなくちゃ。配付する資料と読む原稿は別に用意して!。ゼミ室に緊張が走った。

それぞれの考え方で
徹底的に討論を重ねる

そして討論が開始された。政治的行為がほぼ全面的に規制される公務員に対して、司法が実践的にいかなる救済を図れるか。理論的には「法令(全部)違反」を出せる理由づけも可能であるにもかかわらず、今日の発表グループは「適用違反」という手法の立場をとった。ありえる考え方だろうか、それとも無謀な考えなのか。提出された課題に、皆が真つすぐに向き合う。批判的に検討する。人の話をじっくりと聞き、自分で考え、自分の言葉で話す。絶妙の間合いで先生が「ボスティング(ヒラ配布)関連事件のクロノロジー」という手作りの資料を配付した。先生からの資料



意見交換の種となり、学生たちはテーマの焦点を深めていった。議論は止むことなく、時に先生がこれまでに出た意見や情報を整理して、これまでの道筋を整理してくれる。納得いくまで意見交換を重ね、妥協をしない学生たちは、討論が白熱し講義の時間を過ぎてしまいうことがよくあるそうだ。

VOICES 学生の声 of University Students



城石 さくらさん(左)

和田 真成さん(右)

法学部4年
先生の話をとても興味深く、またゼミはさまざまな形で啓発されることが多く、いつも私に「やる気と元気」をくれます。発表の準備は1~2カ月かかり、討論のための下調べも時間がかかります。しかし、この発表と討論や合宿などのイベントを通して、ゼミ仲間との絆がとても深くなりました。

法学部4年
もっと能動的に学びたい、憲法の魅力を知りたい、そんな気持ちで南野ゼミを希望しました。予習のための文献がとても多く大変ですが、その分大きな充実感を得ています。分析力、考察力、表現力、文筆力などが磨かれてきている実感もあります。先生が言う「強い頭をつくる」ことができているのかもしれない。

「法学部の学生たちは、真面目で能力があるのにおとなしいタイプが多い。私はこのゼミを通して、学びだけではなく一歩前に入る姿勢、世界を広げていく積極性を啓発したいと思っています」と、先生はゼミへの思いをそう語った。資料をまとめることで論理的思考力、分析力、文章表現力を養う。発表することでプレゼンテーション能力を磨く。討論することで聞く力、話す力が身につく。さらにもう一歩進めるために、同ゼミでは夏に「合同ディベート合宿」を行う。一橋大学法学部、慶應義塾大学法学部、早稲田大学法学部・政治経済学部の憲法ゼミが参加する。「トップレベルの学生たちと交流することで、自分たちの足りない部分、あるいは優れた部分に気づく。その気づきが、前へ出る原動力になります」。世界を広

トップレベルの他大学生と
合同ディベート合宿を実施

げるために、合宿と合わせて東京研修旅行も行っている。訪れるのは最高裁判所・国会議事堂、各庁・新聞社・大企業の本社など。
「法学部は進路が多岐にわたります。各分野の中核現場を体験することで刺激を受け、モチベーションを高めることにつながってほしいという思いからです」。先生はこのイベントのコーディネート自ら行い、学生たちが前に進めるようにサポートを行う。



▲昨年の東京研修旅行では、国会議事堂も訪問した。

九州大学

資料の請求および
お問い合わせ先

URL <http://www.kyushu-u.ac.jp/>
〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学 学務部入試課入試第一係 TEL.092-642-2265 FAX.092-642-2267
e-mail: nyushiken1@jimu.kyushu-u.ac.jp

■大学案内・AO入試募集要項(学部)の資料請求
九州大学 学務部入試課入試第三係
TEL.092-642-4488 FAX.092-642-4485
e-mail: nyuac@jimu.kyushu-u.ac.jp

- 文学部
- 教育学部
- 法学部
- 経済学部
- 理学部
- 医学部
- 歯学部
- 薬学部
- 工学部
- 芸術工学部
- 農学部
- 21世紀プログラム

- [沿革・歴史]
- 1903(明治36)年 京都帝国大学福岡医科大学設置
 - 1911(明治44)年 九州帝国大学創設
 - 1919(大正 8)年 九州帝国大学工科大学、九州帝国大学医科大学設置
 - 1924(大正13)年 医学部、工学部、農学部設置
 - 1939(昭和14)年 法文学部設置
 - 1947(昭和22)年 理学部設置
 - 1949(昭和24)年 九州帝国大学を九州大学に改称
 - 1964(昭和39)年 新制九州大学設置
 - 1967(昭和42)年 文学部、教育学部、法学部、経済学部設置
 - 1968(昭和43)年 薬学部設置
 - 2003(平成15)年 歯学部設置
 - 2005(平成17)年 九州芸術工科大学設置
 - 伊都キャンパス開校

[オープンキャンパス情報]

- 8月4日(土)
理学部・工学部・芸術工学部・農学部・21世紀プログラム
 - 8月5日(日)
文学部・教育学部・法学部・経済学部・21世紀プログラム・
基幹教育院(全学教育)(※)
 - 8月6日(月)
医学部・歯学部・薬学部
(※全学教育とは、主に学部低年次(1年又は1年半の間)に
受ける教養及び基礎教育です。)
- 詳細は大学ホームページをご覧ください。



みなみの しげる
南野 森先生

東京大学法学部卒業。同大学院を経て、ノリ第十大学大学院博士前期課程修了。研究キーワードは憲法制定行為、フランス憲法学、法の一般理論、日本憲法史、欧州連合、主権論、司法権。主な著書に「プリジック法学入門」、「憲法学の現代的論点」などがあり、執筆活動も旺盛。2003年より法学部学務委員、2008年4月から2012年3月まで九州大学学生生活・修学相談室の相談員を務める。ツイッターは@sspmi。